

今年も4月29日～5月5日まで、恒例の有田陶器市が開催されます。期間中は100万人を超える日本でも屈指のゴールデンウィークのお祭りです。私のところも、メインストリートのある街の中の出店はいたしません。青木龍山・清高工房展示館で陶器市用に小物の食器や酒器などを中心に展示販売します。何分にもわたし一人で制作しているため数も少ないのですが、有田にこられた際は是非お立ち寄りください。

( [青木龍山清高工房の周辺地図とアクセス](#) )



■写真 青木龍山・清高工房展示館



■写真 陶器市の出番を待つ作品の一部です。

作者：青木 清高

2012年 4月 15日(日曜日) 09:22 - 最終更新 2012年 4月 15日(日曜日) 09:38

九州陶磁文化館では、[青木龍山コレクションの常設展示](#)も開催されています。父に与えられた展示スペースの関係上1年間をかけて、ひと月に2～3点の展示のになるのですが、面白い点は、作品と制作過程を残したデッサンが展示されているところです。もともと日本画を勉強していたのですが、父龍山のデッサンは、彫刻家のデッサンのように立体をタッチで確かめていく様子がわかります。あくまでも、陶磁作品のためのもので、人に見られることなど考えていなかったため、かえって新鮮な感動を与えてくれると思っています。

Life

月 衣・食・住

火 文化・学芸

水 若者・教育

木 全

青木龍山コレクション展

九州陶磁文化館



染繪「激浪」(口径33cm、高さ49cm、底径18cm、1961年)

ショウブの花を大膽にデフォルメした染繪「激浪」の参考スケッチ



天目「龍」(口径40cm、高さ17cm、底径18cm、2010年)

## 「激浪」など創作過程も紹介

国立九州陶磁文化館が所蔵する「青木龍山コレクション」の本年度常設展がスタートした。コレクションは県内初の文化勲章受章者で日本芸術院会員の陶芸家・青木龍山さん（1926～2008年・有田焼）の作品62点で、09年1月、遠鉄から寄贈された。同館はその年6月に開いた回顧展以来、毎月5、6点ずつ作品を入れ替えながらコレクション全点を紹介している。

年度始めの4月は、季節の花を描いたオリジナルのスケッチブック2点とともに、作品5点を公開した。染繪「激浪」（1961年）は、染付の上にショウブを大膽にデフォルメして上絵を施した初期作品。多摩美術大で日本画を学んだ龍山さんならではの絵画的な表現が見てとれる。

代名詞ともいえる天目の作品「龍」（2003年）にも、制作過程を示すボタンのスケッチが添えられている。

点数は少ないものの、初期から晩年までの染付や染繪などがあり、有田の作家としてスタートし、代表作「天目」へと昇華していく龍山作品の変遷をたどることができる内容となっている。

（本紙通付）



青木龍山さんを描いた天目のスケッチブックも「展示しているコーナー」では見られる

▷5月7日まで、国立九州陶磁文化館展示ホールで「青磁」は22日まで展示。月曜休館（5月7日は開館）。次回は展示替えは5月8日。

■写真 佐賀新聞（平成24年4月14日）



■写真 九州陶磁文化館青木龍山コレクション

青木龍山清高工房 - 有田陶器市のお知らせ。

作者：青木 清高

2012年 4月 15日(日曜日) 09:22 - 最終更新 2012年 4月 15日(日曜日) 09:38

---